

2017年度教授・准教授・講師アンケート結果

研究を実施するにあたり困っている点・問題点

項目	件数
研究する時間が取れない。取りづらい ・委員会、就職支援、実習指導、学生相談、各種会議などに時間を費やされる。(13) ・他大学において事務局が担っている業務を教員が行っている。(1)	14
教育に割く時間が多い。 ・講義準備、実習指導、就職指導、授業準備に時間を要する。(5) ・大学院においては社会人入学が多いため学生の都合に合わせての指導を要する。(1)	6
県からの委託事業の実施等に時間を要する。	3
委員会委員や役割の兼務が多い	2
一部の教員に学内の役割が過度に課せられている。	1
倫理委員会の開催日が少ない。	2
倫理委員会の在り方 ・委員会のあり方が問題。研究倫理に熟知した学外の専門家を入れるべき。 ・審査に時間がかかる。 ・倫理以外の医学に関する基本的な知識の説明に時間を費やされる。 ・倫理審査基準がわからない。(倫理と別の内容、方法の比重が大きすぎる。)	6
研究能力 ・研究への取り組み不安 ・研究フィールド開拓への不安 ・テーマの絞り込みへの迷い ・研究の進め方の不安	5
人員配置 ・構成員の入れ代わりが多い。助手・助教がいない	2
夜間(22:00～5:00)及び土日に勤務ができない	2
英文のネイティブチェック、統計処理のチェックのサポート体制がない。	1
研究旅費が少ない	1
財務システムに時間を要する	1

研究を進めていくために改善すべき事項あるいは必要な事項

項目	件数	所掌部門
研究倫理に熟知した外部委員(専門家)の登用 ・研究倫理に熟知した学外の専門家を委員として入れるべき	2	研究倫理委員会
研究倫理審査の開催日を増やす ・随時(毎月)受付 ・年度当初に開催計画提示 (審査委員の負担が増えないよう、審査の簡略化等も同時に必要)	3	研究倫理委員会
研究倫理の内容別審査方法の設定 ・倫理的な問題が起こりにくい研究については、簡便な手続き(委員数名での事前審査、メールでのやりとりなど)が取れるようにする。	2	研究倫理委員会
研究倫理委員会での審査の迅速化と妥当性の確保	1	研究倫理委員会
倫理委員の自己研鑽 ・倫理委員は、研究の妥当性を判断する重要な責任を持つので、研修への参加や担当者への情報収集などを行い、倫理審査についての学外での状況や最新の研究の動向などの情報を得よう常に努めるべき。	1	研究倫理委員会
委員会の委員構成の考慮 ・委員の掛け持ちをなくす。 ・各委員会の委員を少なくする。 ・委員会の事務局の関与を強化する。 ・一部の教員に学内の役割が過度に課せられているので、業務の偏りをなくす。	5	
教育に充てる時間の縮減 ・休日の授業を減らす。	3	
予算配分、支払い業務についての緩和 ・(少額でも)自由に使える予算の配分(調査協力者への謝礼等の費用) ・教員研究費、旅費、講義経費、地域貢献事業等の支出に関する制限の緩和 ・物品を購入する業者に関する制限の緩和(ネットでの注文を可能にするなど) ・研究費旅費と研究費の流用を可能にする。 ・学会の年会費や学術集会費を研究費から支出できるように等 ・研究費の使用が窮屈。前所属では、個人研究費は個人管理となっていたので、旅費と研究費の配分も自分で決定できた。また、備品は10万円以上となっていたので、見積もりなどの依頼などの手間が省けていた。	6	事務局
研究図書(単著)の発刊数を増やすための出版助成費の創設	1	事務局

様々な事務手続き等の簡素化 ・業務の見直し・軽減。 ・事務手続きを簡略化する研究に関する相談システム	8	事務局
研究日の設定導入・研究時間の確保・捻出 ・研究を優先できる時間を確保して欲しい ・論文を書くには、データ収集、分析、解析を行う時間が必要であり、ある程度のまとまった時間が必要。	2	
研究指導体制の整備 ・研究に関する相談システム（建設的な討議ができるとモチベーションを維持して取り組める）の導入 ・具体的な研究ノウハウの指導 ・領域内での教授等からの研究指導を進める ・上司に限らず、研究に関する研修や指導の機会を設ける ・研究に関するFD研修会を増やす ・他の機関に入って研究を進めていくときの手順や方法についての指導 ・研究ミーティングの開催 ・査読会の開催	6	研究推進委員会
サバティカル制度の導入 ・サバティカル制度或いは国内外の留学制度の導入。1年や半年、他大学で研究に専念することで、研究者の基礎が築けると思う。 ・著書の刊行、学術論文（査読付）の執筆を義務づけた上でのサバティカルへの導入	2	事務局
研究環境の整備 ・集中して研究できる環境の確保（研究室は1人1部屋） ・夜間の研究、統計ソフト、研究機器	2	事務局
オンラインでの文献検索をもっと使いやすくする。（国内外文献データベースやオンライン閲覧の使用契約を増やすなど）	1	図書館運営委員会
看護研究・研修センターを教員の研究サポート機関としてより活用できる方法はないか	1	看護研究・研修センター
本学紀要の論文投稿を自由投稿制に加えて輪番制を導入する。	1	研究紀要委員会
PCを使いやすいものにする。（複数のソフトを使用しても処理速度が落ちないように）	1	事務局
法人化にあたって、指定寄付金制度などの受け入れ準備	1	事務局
外部資金の獲得や産学連携も一側面として否定しないが、看護学の研究は、競争的環境の中で取り込まれるものばかりでなく、それらの側面ばかりが評価として着目されることに違和感を感じる。	1	
・業績稼ぎのための場当たりの研究にならないようにする ・個別実証研究のための研究フィールドを確保する	1	
その他研究の推進について意見		
その他意見	件数	所掌部門
研究費の増額 ・科研費と個人研究費を合わせるとある程度の内容の研究の遂行が可能である。科研費が取れない場合は、研究を制限せざるを得ない状況である。	1	事務局
若手対象の研修予算確保 ・国内外への研修のための予算確保 ・研修でいない者の非常勤の雇用費用確保	1	事務局
専門領域教授の研究立上げ ・理論レベルの論文を書くか、プロジェクトレベルの研究の立上げ	1	各領域の教授

2017年度助教・助手のアンケート結果

研究を実施するにあたり困っている点・問題点

項目	件数
<p>倫理委員会の開催日程の少なさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間日程も提示されていないため研究計画の予定が立てづらい。 ・やりたい研究ができないことがある。 	2
<p>倫理委員会の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理面で問題がなく、学内委員会規定で迅速審査に該当するような研究についても対面審査を行い倫理面以外のことについても指摘を受ける。 ・承認までに時間がかかるため研究を進めるうえで障害となっている。 ・倫理委員会までのプロセスが明確にされていない。 ・実施後の振り返りの研究は倫理の対象外と言われたが、外部講師による倫理研修では実施後も倫理を通すことができるとのことだった。一個人の意見で倫理の基準を決めるのではなく、倫理に関する知識を身に付けて基準を明確にしてほしい。 ・実施後の振り返りは頻繁に行っているが、倫理委員会の許可がもらえないため実績にできない。 ・委員が委員会以外で個人的に指導したり、上司に話すため個人情報保護の観点から倫理委員会に提出するのに抵抗がある。 	4
<p>研究能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究経験が少なく、研究への取り組みに不安がある。 ・研究手法が十分に熟知できていないことに不安がある。 ・実力のなさや研究に対する体力のなさ ・研究を進めていく作法が身につけていないし、学ぶ場所が少ない。 ・何を研究しようか浮かんでこない。 ・精神的に研究に取り組む余裕がない。 	11
<p>研究する時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育(授業、授業準備、記録)に時間を費やされる。 ・大学運営に関して時間を費やされる。 ・学生のレポートを読んだり、授業準備で余裕がない。 ・領域の雑務に時間を費やされる。 ・講義、大学行事、委員会、学術集会等の準備、議事録作成に時間を要する。 ・研究日が確保されていない。 	6
<p>研究費の使用制限など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究費での物品の購入等制限（PCの購入ができない等）が多い。 ・納品が遅く、必要なときに物品が届かず使いづらい。 	3
<p>研究環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究用の部屋として空いている研究室の一部開放 ・文献検索が自分のパソコンからできない。 ・統計分析ソフトが自費購入となっている。 ・統計ソフト(S P S S)が導入されていないため、量的研究に時間がかかる。 ・鍵付きの個人専用棚がない。 ・文献や資料の保管場所が少なく収まらない。 ・学内で研究することに気が引ける。(研究する時間があると思われる。) 	6

→ 場所の確保、研究に関する指導、倫理委員会の月1開催、倫理申請のためのチェックリストの作成などの手順の

研究を進めていくために改善すべき事項あるいは必要な事項

改善事項	件数	所掌部門
研究指導体制の整備 ・領域内外での研究指導体制の整備 ・定期的(月1回程度)に領域内外の研究ミーティングの実施、メンタリング制度導入、研究チームとしての取り組み ・上司と一緒に研究に取り組んでいく中で作法をつかみ取っていきける体制の整備 ・新人教員向けの研究に関する研修 ・学内の各分野の先生の研究活動を知り、具体的な研究のノウハウを学びたい	5	領域
領域での共同研究の推進 ・研究テーマについての各領域における検討会	2	領域
領域内における研究検討会開催	1	領域
領域内サポート体制充実 ・上司からの具体的な研究ノウハウの指導	1	領域
研究時間の確保	4	大学・領域
業務の効率化・見直し・改善 ・メール会議の導入 ・教育・研究に充てられる時間割合の見直し ・土日のイベントや行事を減らす。学祭や入学コンサートなど学生主体の行事に教員が積極的にかかわるのを減らすなど全体的な見直し ・進路ガイダンス(模擬講義以外)を担当するプロパー配置 ・ボランティア業務の見直し ・演習の準備などへの協力体制強化 ・ミーティングや議事録作成時間の短縮 ・大学全体で使用できる統計ソフトSPSSの導入 ・行事の見直し、イベントにおける人員配置削減、入試相談会の実施先の見直し	9	大学(委員会、領域含む)
研究費の使用法の改善 ・立て替え払いでの支出、研究図書を消耗品として使えるように ・科研費の支払処理方法	3	大学、事務局
年度計画の提示(開催日) ・倫理委員会の審査会の年間日程を年度当初までに提示してほしい。	1	研究倫理委員会
審査結果の提示のあり方 ・審査結果について、逐語録様ではなく、指摘事項や修正事項を文書で明示してほしい。 ・基準を事前に示し、明確な基準をもとに審査を行ってほしい。	2	研究倫理委員会
書面審査の導入	1	研究倫理委員会
申請書の様式見直し ・必要事項の記載漏れがないような様式の見直し	1	研究倫理委員会
外部資金獲得のための研修会 ・科研費を獲得している研究者から、研究計画書や申請書の書き方についてノウハウを学べる機会、実際に指導が受けられる機会を設けてほしい。 ・外部資金獲得のための情報提供 ・科研費で研究活動をしている先生の実例(申請から成果報告まで)の一連を知り、ノウハウを学びたい ・学内の各分野の先生方の研究を知ることで具体的な研究のノウハウを学びたい	5	研究推進委員会・事務局
学内外での研修 ・他大学との交流	1	学内：研究推進委員会、学外：大学？
意識の統一	1	大学
学生指導、研究へのプレッシャーの緩和	2	

その他研究の推進について意見

その他意見	件数	所掌部門
研修会の開催 ・他の教員の研究紹介 ・新人教員向け研究に関する研修 ・先生方の研究活動を知ることで、具体的な研究のノウハウを学びたい	4	研究推進委員会
研究閲覧ページの開設・発表内容をメールで周知	1	研究推進委員会+他協力委員会
パソコンの使用に関する改善(規則の見直し) ・ノートパソコンにして自由に持ち運びができるようにしてほしい。	1	大学・情報委員会他
他大学との交流	1	大学
その他：取り組む研究課題に対する意見、全職員での取り組みが進むとよい	2	

他：県立看護大学学術集会について、助教・助手は参加費を払っているにもかかわらず、ほぼ裏方に回らなければならない。運営費、参加人数を増やすためであり、雑用係である。これも一つの参加の形、学びというのであれば、学会の経営を疑う。雑用係は、カフェの運営や調理、受付、お弁当配布などである。司会進行などは任せられない。学会の講演などは一切聞くことができず、忙しい。若手の研究推進を言うのであれば、配慮をお願いしたい。

2019年教授・准教授・講師のアンケート結果

困っていること

時間確保に関すること (19)

- ・教育に力を注いでいるが、委員会活動、働き方改革もあり、研究の時間もなかなか取れない。自己の能力の問題もある。
- ・研究の時間が取れない
- ・委員会活動・学年顧問等の校務、及びそれにとまなう会議や事務作業に時間を費やされ、研究の時間がとれない。教員一人あたりが担当する委員会数を減らすべき。
- ・委員会活動、行事、地域貢献に時間を費やされ、研究の時間が取れない。
- ・日中の多くの時間が会議にとられて研究の時間が取れない。教員間での業務量の格差があるように感じられる。
- ・委員会活動、学生指導などの業務が煩雑化している
- ・委員会活動などで研究の時間をうまく作ることができていません。
- ・教育や委員会活動に追われ研究の時間が捻出困難。こまごましたことが多すぎる(特に教育)。
- ・9月下旬以降2月まで、実習で実習場に張り付きとなり、研究時間の確保が難しい。実習で学内にいないため、他の教員と研究の話もできない。
- ・教育・研究以外の学内作業に時間を費やされ、時間が取れない。
- ・委員会活動が多い。
- ・講義準備や実習指導に時間が費やされる。
- ・委員会業務に時間をとられ、研究時間が取れない。
- ・教育や委員会等の大学組織活動、地域貢献など、研究に割ける時間をつくりだせない
- ・朝～夕まで実習があり、その後、夜や休日に学内の業務を行っているため、研究時間を確保できない。
- ・実習、授業、自己研鑽のための研修に時間を費やされじっくり研究の時間が取れない。たとえ前期に研究の体制を整えても後期の長期間の実習にて持続できないのではないかと懸念される。
- ・実習が始まると時間外でしか研究の時間が取れなくなるが、働き方改革のこともあり時間の確保が難しい。
- ・時間がない。マンパワーがない。
- ・研究の時間がとれない。

倫理審査に関すること (3)

- ・倫理審査が難しい。
- ・研究倫理委員会のハードルが高いことと時間がかかること。
- ・倫理委員会に明らかに問題がある

研究環境に関すること (1)

- ・SPSSの統計ソフトが大学全体で使用できず、個人購入しないといけない(前大学では、教員研究室・大学院生室は誰もが使用できるようになっており、アップデートも大学経費で行われていた)。

研究指導体制に関すること (1)

- ・関心事を明らかにする研究方法(分析方法等)が、適切なのか分析は勝手な解釈となっていないか等、研究指導を受けたい ・相談をしたい時があるが、領域内では難しい。

改善点

時間確保(業務量削減に関すること) (13)

業務量(事務作業・委員活動)の見直し

業務を見直し

教育や委員会活動等の負担を軽くする。所属する委員会の数を減らす。人員の配置。

委員会活動の削減。

教育、研究、地域貢献が求められ、なお勤務時間を適正にと言われるが、研究時間は休日や時間外にしかできない。求められることと現実のギャップが大きすぎると思う。時間の確保が課題と思います。改善するためには、業務改善が必要ではないでしょうか。

委員長副委員長などの役割を輪番制にすること。

業務量格差の改善。

業務のスリム化

時間がとれる仕組み、少なくとも講義と委員会活動の総時間が多少誤差範囲はあってもだいたい同じくらいになるように調整するなどのしくみ。

(1)事務体制の強化:事務局も少ない人数で頑張ってくれているが、結局のところ事務的な作業を教員がシェアしています,(2)欠員の補充:実習などの負担を分散させる必要があります,(3)授業聴講の廃止もしくは大幅カット:時間の無駄です

教育や委員会活動に関わる負担を軽減する。

時間、マンパワー

実習体制について。

時間確保（制度導入に関すること）（3）
サバティカル制度の導入。 夜間も学内で自由に研究等活動できるようにしてほしい。 サバティカルの導入。

自己管理（2）
自己の時間管理 意識、

倫理審査に関すること（4）
倫理委員会の検討が必要でないアンケートなど随時迅速審査制度を導入してはどうか。論文発表の際に倫理承認番号が必要である。現在は変わっているかもしれないが、1年以上保留された結果、本来は倫理委員会に申請する必要はないものだと笑いながら言われたことがある。そのような「研究の足止めをする、もしくははされている」と感じるような委員会の姿勢はおかしいと本当に思う。教員の研究意欲を削ぐ言動だと感じた。 倫理審査の書類をもっと簡潔なものにする。倫理審査の回数を増やす。 研究倫理承認までかなりの時間がかかるため、委員会が他大学のように月1回開催または、迅速審査が規定に該当する研究はすべて迅速で実施できないだろうか。 ・倫理審査は、毎月して開催して欲しいと思います。

助成金制度（出版への）（1）
研究図書出版に関して助成金制度の設置。

研究推進へのご意見
時間確保に関すること（1）
行事が多いと思います。何か新しいことをする場合は、不要なもの・効率的効果的でないもの・優先順位が低いものを評価して、古いことを1つやめるべきだと思います。行事が増え、業務が増え、人は減り、働ける時間は減り、という状態では、教育研究の質は落とすしかありません。

研究集談会に関すること（1）
研究集談会等で、教員が取り組んでいる研究を紹介する機会を設けるのもよいかと思います。 科研費の研修も助かっていますが、実際の計画書が他者から見てわかりやすいかなどコメントがもらえる仕組みがあると助かります。

研究の自由度に関すること（1）
領域にしばられずに、自由に取り組みたい研究課題に取組み、支援を受けられる体制。 個々人が行いたい研究を自由にできるような雰囲気になっていけたら、もっと研究が進むのではないのでしょうか？

研究費に関すること（1）
研究費で補助者の雇用できるようになったことはよかったが、手続きがやや煩雑であり、また十分な時間ではない。

臨床との共同研究推進に関すること（1）
病院と共同で研究を進めることができるような仕組み？体制？などがあると、臨床系の研究が進めやすいと思いました。

若手支援に関すること（1）
助手や若手の助教の方への研究支援（研究費以外で）が大事だと思います。

オリエンテーションに関すること（1）
大学の研究のしくみ・組織がわからない。入職時に説明がない例）倫理委員会開催の時期、担当、書類

2. 改善・評価できる点
倫理審査に関すること（1）
倫理審査体制の改善

若手支援（1）
若手の研究環境の整備

研究集談会・助成金（2）
・定期的な研究集談会等の様々な取り組みは良い学びになっています。引き続き継続して頂きたいと思います。 ・2017年度に比べ、教員全体として研究への取り組みが向上したと感じている。研究集談会や学内研究費助成制度新設もその一助となっていると思う。

研究費に関すること（4）
研究費で学会年会費が払えるようになったのはよかった。 いろいろな取り組みがなされて研究費は使い勝手がよくなったと思います。 研究費が非常に潤沢に配分されるので、それ相応の研究結果を残していかなければならないと思います。 改善された部分、評価できる部分 研究費使用の柔軟度

その他
この1、2年の本学の研究推進は進んできていると思います。これも研究推進委員会の皆様のご尽力のお陰もあるかと思っています。

2019年助教・助手アンケート結果

困っていること
時間確保に関すること（6）
<ul style="list-style-type: none">・研究時間が確保できません。特に実習期間中は患者さんと学生の事で時間がいっぱいでありそれ以外のことができる状況になく、事務の資料提出なども遅れてしまいます。実習場所での時間の確保も必要です。・授業準備等の細々したことに時間を要し、研究の時間が取ることが難しい。・実習中は研究時間確保が難しいです。学務や講義数のスリム化、効率化していただきたいとも思います。・会議や書類、提出物等が煩雑で集中して研究に取り組めない時もある。実習が開始すると研究を進める時間がない。実習終了後や土日の就労も働き方改革もあり、大学での研究作業も進めにくさを感じるため、研究に費やす時間の確保が難しいと感じる。・実習に時間を費やさされ、研究の時間が取れない。・授業準備やレポート読むのに時間がかかるため研究の時間がとれない

倫理審査に関すること（1）
<ul style="list-style-type: none">・倫理審査の開催日程が少なく、年間の予定が決まっていなため計画的に研究が進められずに困っています。また、迅速審査の基準は示されているものの、それを申請者が選ぶことができないため、結果として通常の審査になってしまうのかと思います。新申請書様式の説明や、学内の倫理審査がどのように行われているかなど説明がいただける機会があるとよいのかと思いました。

研究環境に関すること（2）
<ul style="list-style-type: none">・集中しにくい環境である。・実習場所でのネット環境の確保

改善点
時間確保（実習体制の見直しに関すること）（3）
<ul style="list-style-type: none">・臨地実習Ⅱを臨地実習Ⅲのように病棟に常にいるのではなく、時々見回る形にする。・特に実習が始まってからの研究に費やす時間の確保ができるような実習指導体制づくり。・実習自体の見直し。

時間確保（会議等のスリム化に関すること）（1）
<ul style="list-style-type: none">・会議や研修等のスリム化による時間の確保が必要。

研究環境に関すること（2）
<ul style="list-style-type: none">・大学全体で研究がノルマではなくワクワクするものだという雰囲気が必要であると思います。また、基本的な研究に関する学びが必要なのだと思います。研究環境に関して、やはり少人数の研究室が良いです。・研究への助言をいただける環境づくり。

倫理審査に関すること（1）
<ul style="list-style-type: none">・倫理審査を毎月開催で予定していただきたいです。

研究費に関すること（1）
<ul style="list-style-type: none">・研究費の柔軟な使用（少額の消耗品や書籍を立替払いでも可能にしていきたいです）

研修・講義に関すること（2）
<ul style="list-style-type: none">・大学教員として研究する必要性について講義があると良い。・研究方法論についての学外講師を招聘したセミナーの開催

研究推進委員会への意見
助成金に関すること（2）
<ul style="list-style-type: none">・若手研究奨励事業はとても良かったです。次のステップに進める機会にできました。・若手奨励研究費など学内の競争的資金が作られたことは、非常にありがたく思います。

研究環境に関すること（2）
<ul style="list-style-type: none">・助手室の仕切り、電話の改善がなされた。・研究室の少人数配置も実現していただけたことに感謝いたします。研究実績が伴ってくるように努力しないといけないなど気持ちを新たにしました。

研究集談会に関すること（1）
<ul style="list-style-type: none">・科研費セミナーを受講したことが、申請書作成の上で役立ちました。